



安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2025/10/02 改訂日: 2025/11/12 バージョン: 1.1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : HC Agar Base
製品タイプ : Food Safety -- [Food Safety]
製品コード : NCM0155
Part Number(s) : NCM0155|400000846|700003416

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 分析用薬剤、化学研究及び開発

会社情報

仕入先

Neogen Corporation
48912
United States of America Michigan Lansing 620 Lesher Place
T 800.234.5333
sds@neogen.com - <https://www.neogen.com/>

輸入業者

ネオジェンジャパン株式会社
220-0012
神奈川県 横浜市西区 みなとみらい 3-3-3 横浜コネクトスクエア
12 階
T 045-211-4615

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 24 hours:
Medical: 1-800-498-5743 (U.S. and Canada) or 1-651-523-0318 (international)
Spill/CHEMTREC: 1-800-424-9300 (U.S. and Canada) or 1-703-527-3887 (international)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分に該当しない

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

	急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	区分 4
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分 1B
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

：危険

危険有害性 (GHS JP)

：重篤な眼の損傷 (H318)

吸入すると有害 (H332)

発がんのおそれ (H350)

注意書き (GHS JP)

安全対策

：使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。(P261)

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

：吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
(P304+P340)

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

(P305+P351+P338)

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

(P308+P313)

直ちに医師に連絡すること。(P310)

気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)

保管

：施錠して保管すること。(P405)

廃棄

：内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。
(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

：混合物

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

名前	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
Sodium carbonate	≥ 1 - < 5	(1)-164	既存化学物質	497-19-8
Ammonium chloride	≥ 1 - < 5	(1)-218	既存化学物質	12125-02-9
Chloramphenicol	≥ 0.1 - < 0.5	-	4-(7)-991	56-75-7

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般	： ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
吸入した場合	： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	： 皮膚は多量の水で洗浄する。
眼に入った場合	： 水で数分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	： 気分が悪いときは医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護	： First-aiders should pay attention to their own protection and use the recommended personal protective equipment (see section 8)。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合	： 吸入すると有害。
症状/損傷 皮膚に付着した場合	： 通常の条件下では特に無し。 粉じんは皮膚のひだまたは密着した衣服に接触することで刺激を起こすことがある。
症状/損傷 眼に入った場合	： 眼に重度の損傷を与える。
症状/損傷 飲み込んだ場合	： 通常の条件下では特に無し。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療	： 対症的に治療すること。
-------------------	---------------

5. 火災時の措置

適切な消火剤	： 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	： 強い水流は使用しない。
火災危険性	： 火災の危険は一切ない。
爆発の危険	： 直接に爆発する危険は全くない。
火災時の危険有害性分解生成物	： 有毒な煙を放出する可能性がある。
消火方法	： 安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。 呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
消火時の保護具	： 適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。

非緊急対応者

保護具 : 推奨される個人用保護具を着用する。
応急処置 : 出勤は、適切な保護装備を身につけた有資格者に限られる。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

緊急対応者

保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
応急処置 : 不要な職員を退避させる。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 : 清潔なショベルを使用して、ドライコンテナに物質を入れ、圧縮せずに覆います。
浄化方法 : 製品は機械的に回収する。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : データなし
安全取扱注意事項 : 作業所の十分な換気を確保する。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
作業場における製品の放出を避けるため、または最小限にするため、技術的に必要なあらゆる措置をとる。
取り扱う製品数は必要最小限にし、ばく露使用者の人数を最小限に抑える。
部屋の排気および全般的な換気を確保する。
個人用保護具を着用する。
危険エリア内の床、壁、その他の表面は定期的に清掃しなければならない。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
皮膚、眼との接触を避ける。
接触回避 : データなし
衛生対策 : 作業服と外出着とを分ける。個別に洗う。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料 : データなし

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

技術的対策	： 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
容器包装材料	： 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
保管温度	： 2 – 30 °C

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	： 作業所の十分な換気を確保する。
保護具	
個人用保護具	： 推奨される個人用保護具を着用する。
呼吸用保護具	： [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	： 保護用手袋
眼の保護具	： 安全メガネ
皮膚及び身体の保護具	： 適切な保護衣を着用する。
環境へのばく露の制限と監視	： 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 固体
外観	： 粉末
色	： ベージュ色
臭い	： 特異臭
pH	： 6.8 – 7.2
融点	： データなし
凝固点	： データなし
沸点	： データなし
引火点	： データなし
自然発火点	： データなし
分解温度	： データなし
可燃性	： データなし
蒸気圧	： データなし
相対密度	： データなし
密度	： データなし
相対ガス密度	： データなし
溶解度	： 水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	： データなし
爆発限界 (vol %)	： データなし
動粘性率	： データなし
粒子特性	： データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	： 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	： 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	： 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	： 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第 7 項参照）。
混触危険物質	： データなし
危険有害な分解生成物	： 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

11. 有害性情報

急性毒性 (経口) : 分類できない
急性毒性 (経皮) : 分類できない
急性毒性 (吸入) : 区分に該当しない(分類対象外) (気体)
区分に該当しない(分類対象外) (蒸気)
吸入すると有害

HC Agar Base	
ATE JP (粉じん、ミスト)	1.319 mg/l/4h
未知の急性毒性 (GHS JP)	混合物の 36.08%は未知の急性毒性(経口)の成分で構成されている 混合物の 96.63%は未知の急性毒性(経皮)の成分で構成されている 混合物の 94.09%は未知の急性毒性(吸入 (粉じん/ミスト))の成分で構成されている
Sodium carbonate (497-19-8)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 = 2800mg/kg、および 4090mg/kg (SIDS (access on July 2008)) はいずれも JIS の分類基準の区分外に該当する (国連 GHS では区分 5 に該当)。
急性毒性 (経皮)	ウサギ LD50 > 2000mg/kg (SIDS (access on July 2008)) により区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義による固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラット LC50 (4 時間換算) 1.2 mg/L (SIDS (access on July 2008)) より区分 4 とした。
LD50 経口 ラット	2800 mg/kg (Rat, Male / female, Experimental value, Oral, 14 day(s))
LD50 経口	2800 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg (16 CFR 1500.40, 24 h, Rabbit, Experimental value, Dermal, 14 day(s))
LD50 経皮	2500 mg/kg
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	1.2 mg/l/4h
Ammonium chloride (12125-02-9)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 = 1650 mg/kg (ACGIH (2001))、1410 mg/kg bw (SIDS (2009))、1658 mg/kg bw (IUCLID (2000)) が区分 4 に相当する。
急性毒性 (経皮)	データなし。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	1410 mg/kg BW (Equivalent or similar to OECD 401, Rat, Male / female, Experimental value, Oral, 14 day(s))
LD50 経口	1410 mg/kg

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Ammonium chloride (12125-02-9)	
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW (EU Method B.3: Acute toxicity (dermal), 24 h, Rat, Male / female, Experimental value, Dermal, 14 day(s))
LC50 吸入 - ラット	> 3.6 mg/l (4 h, Rat, Male, Read-across, Inhalation (dust))

Chloramphenicol (56-75-7)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】 (1) より、区分に該当しないとした。【根拠データ】 (1) ラットの LD50: 2,500 mg/kg (GESTIS (Access on May 2020))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】 GHS の定義における固体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
LD50 経口	2500 mg/kg

皮膚腐食性／刺激性 : 区分に該当しない

HC Agar Base	
pH	6.8 – 7.2

Sodium carbonate (497-19-8)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギ皮膚に 4 あるいは 24 時間適用した試験で紅斑および浮腫ともスコアは 0、刺激性なし (not irritating) の結果 (SIDS (access on July 2008)) が得られ、さらにヒトのパッチテストでも 4 時間適用により紅斑および浮腫ともスコアは 0、刺激性なし (not irritating) の結果 (SIDS (access on July 2008)) が得られていることに基づく。なお、ウサギおよびヒトとも損傷皮膚に適用した場合には一次刺激性指数は 2 以上となり若干の刺激性が報告されている (SIDS (access on July 2008) , ECETOC No.66 (1995)) 。

Ammonium chloride (12125-02-9)	
皮膚腐食性／刺激性	6 匹のウサギの各 2 箇所適用部位 (合計 12 箇所) を用いた Draize 試験 (GLP 準拠) において、適用 24 時間後の紅斑のスコアが、2 が 7 部位、3 が 5 部位であった。48 及び 72 時間後の紅斑、浮腫及び痂皮のスコアは全ての動物で 0 であり、個体毎の平均スコア値は何れも 1 以下である (SIDS (2009)) ことから区分外とした。

Chloramphenicol (56-75-7)	
皮膚腐食性／刺激性	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 重篤な眼の損傷

HC Agar Base	
pH	6.8 – 7.2

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Sodium carbonate (497-19-8)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた試験において、「刺激性なし（not irritating）」～「強い刺激性（highly irritating）」と相反する結果（SIDS（access on July 2008））が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜（発赤、浮腫）に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均（MMTS）が105と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8、虹彩で2であり、一部の動物で角膜パンヌスおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。なお、pH = 11.58（5 wt% aqueous sol. at 25℃）（HSDB（2003））である。
Ammonium chloride (12125-02-9)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた試験で軽度（mild）の刺激性との記述（ACGIH（7th, 2001））、また、点眼後10分、1時間、24時間に中等度（moderate）の刺激性が認められ、発赤、浮腫ないし角膜混濁などの変化は8日以内に跡形も無く回復したとの記述から（SIDS（2009））区分2Bとした。
Chloramphenicol (56-75-7)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性：分類できない	
Sodium carbonate (497-19-8)	
呼吸器感作性	データなし。
Ammonium chloride (12125-02-9)	
呼吸器感作性	データなし。
Chloramphenicol (56-75-7)	
呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感作性：分類できない	
Sodium carbonate (497-19-8)	
皮膚感作性	データなし。
Ammonium chloride (12125-02-9)	
皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験（maximization test: GLP 準拠）で陽性率10%（2/20）であり、基準の30%より低い「感作性なし」との報告（SIDS（2001））により区分外とした。
Chloramphenicol (56-75-7)	
皮膚感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性：分類できない	
Sodium carbonate (497-19-8)	
生殖細胞変異原性	データ不足。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Ammonium chloride (12125-02-9)	
生殖細胞変異原性	マウスに腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験（体細胞を用いる <i>in vivo</i> 変異原性試験）で陰性（SIDS（2009））とする報告に基づき区分外とした。なお、 <i>in vitro</i> 変異原性試験の Ames 試験で陰性（SIDS（2009）、IUCLID（2000））、Cytogenetic assay で陽性（SIDS（2009））の報告がある。

Chloramphenicol (56-75-7)	
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)～(3)より、区分2とした。情報源の精査により、分類結果を変更した。【根拠データ】(1) <i>in vivo</i> では、マウスの優性致死試験で陰性（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)）、マウスの染色体異常試験で陽性（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)、EU EMEA (1996)、JECFA TRS 925 (2004)）、ラット及びマウスの小核試験で陰性の報告がある（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)、EU EMEA (1996)、JECFA TRS 925 (2004)）。(2) <i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、陽性の報告（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)、MAK (DFG) vol.9 (1998)）、大腸菌を用いた DNA 修復試験で陰性、陽性の報告（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)）、哺乳類培養細胞を用いた DNA 断片化検出試験で陽性（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)、EU EMEA (1996)）、姉妹染色分体交換試験で陰性、陽性の報告、ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験で陽性の報告がある（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)、EU EMEA (1996)、JECFA TRS 925 (2004)）。(3) クロラムフェニコールは <i>in vivo</i> の体細胞に対し遺伝毒性を有するとの報告がある（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)）。

発がん性：発がんのおそれ

Sodium carbonate (497-19-8)	
発がん性	データなし。

Ammonium chloride (12125-02-9)	
発がん性	飲水投与によるプロモーション作用を調べた試験の報告（SIDS（2009））はあるが、被験物質の直接的な発がん性試験のデータはなく分類できない。

Chloramphenicol (56-75-7)	
発がん性	【分類根拠】(1)～(3)に基づき、区分1Bとした。【根拠データ】(1) 国内外の分類機関による既存分類では、IARC でグループ 2A (IARC 50 (1990))、NTP で R (NTP Roc (14th, 2016)) に分類されている。(2) 要約のみの報告であるが、マウスに本物質を飲水投与した発がん性試験では、2 系統のマウスでリンパ腫の発生率の増加、1 系統のマウスで肝細胞がんの発生率の増加がみられた（食安委 動物用医薬品評価書 (2014)、EU EMEA (1996)）。(3) 本物質は再生不良性貧血を誘発し、白血病の発生に関連している (IARC 50 (1990))。
IARC グループ	ヒトに対しておそらく発がん性がある
国家毒性プログラム(NTP)ステータス	合理的に予見可能なヒトへの発がん性物質

生殖毒性：分類できない

Sodium carbonate (497-19-8)	
生殖毒性	ラット、マウスおよびウサギのそれぞれ器官形成期に経口投与した試験でいずれも母体への毒性および催奇形性を含め発生毒性は認められていない（SIDS（access on July 2008））が、親動物の性機能、生殖能に対する影響に関してデータはなく分類できない。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Ammonium chloride (12125-02-9)	
生殖毒性	マウスに経口ばく露による二世代試験において、外見上の奇形はなく、高用量で生存仔が得られず中用量でも同腹仔の半分が死亡した (IUCLID (2000)) が、試験物質として混合物 (本物質 42.9%) が使用されたため評価が困難であり分類根拠としなかった。ラットに妊娠 7 日目から飲水投与により催奇形性は認められず、胎児の成長阻害が認められたが、投与量から明らかに母獣の代謝性アシドーシスによるものと結論付けられている (SIDS (2009))。一方、ラットの妊娠 9 から 12 日に混餌投与 (6%) により代謝性アシドーシスを認め、60 例が懐胎、20 例が吸収されたとの記述があるがそれ以上の情報はなく、対照群も設けられていないので分類できない (IUCLID (2000))。また、マウスの妊娠 10 日目に 600 mg/kg を 1 日 4 回経口投与により、胎仔の 7% が欠指との記述 (Teratogenic (12th, 2007)) があるが、詳しいデータがない上 1 日合計 2400 mg/kg の投与は、LD50 が約 1500 mg/kg であることから極めて高い用量と言えるので分類の根拠とはしなかった。以上より、分類根拠とするにはいずれもデータ不十分であり「分類できない」とした。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Chloramphenicol (56-75-7)

生殖毒性

【分類根拠】(1)～(5)より、発生毒性試験において胚及び胎児の死亡率の増加がみられた。母動物毒性の有無については明確ではないが(4)より、最高用量で体重低値のみがみられたとの記載から、明確な母動物毒性がみられない用量で胚・胎児死亡率の増加がみられたと判断し、区分1Bとした。なお、新たな情報源の使用により、旧分類から分類結果を変更した。【根拠データ】(1)妊娠マウスに強制経口投与した発生毒性試験において、胚/胎児死亡率増加がみられている。胚・胎児死亡率は、1,000及び2,000 mg/kg/dayにおいてそれぞれ71及び100%であり、500 mg/kg/dayでは31%、対照群では24%であった(食安委 動物用医薬品評価書(2014))。(2)妊娠ラットに強制経口投与した発生毒性試験において、胚/胎児死亡率増加がみられている。胚・胎児死亡率は、妊娠5～15日に投与した500 mg/kg/dayで63%(背景対照: 23%)であった。また、臍ヘルニアが2,000 mg/kg/dayを妊娠6～8日に経口投与した群で36%、妊娠8日に単回投与した群で11%にみられている(食安委 動物用医薬品評価書(2014))。(3)妊娠ウサギに強制経口投与した発生毒性試験において、胚/胎児死亡率増加がみられている。500 mg/kg/dayでは死亡胎児数の増加はみられなかったが、1,000及び2,000 mg/kg/dayでは、胎児死亡率がそれぞれ25及び58%であった(背景対照: 10%)。骨化遅延が投与群で顕著であったが、奇形の発現率は低かった(食安委 動物用医薬品評価書(2014))。(4)ラット及びマウスでは500～2,000 mg/kg/day、ウサギでは500及び1,000 mg/kg/dayを経口投与した発生毒性試験で、3つすべての種で胚及び胎児の死亡と胎児発育遅延の発生率の増加がみられた。ラットでは催奇形性は主に臍ヘルニアでラットでのみに観察された。妊娠した動物は最高用量での体重低値以外に毒性の兆候を示さなかった(IARC 50 (1990)、HSDB (Access on May 2020))。これは、(1)～(3)と同じデータ。(5)ラット及びウサギの催奇形性試験において、催奇形性効果を示さなかったが、試験された最低用量レベルでさえ胎児死亡の高い発生率を引き起こした(EU EMEA (1996))。【参考データ等】(6)食安委 動物用医薬品評価書(2014)では、「生殖発生毒性を評価するには十分なデータはないと判断されたが、生殖発生毒性を有することが推察されたことから、ヒトに対する影響が懸念される。」としている。(7)ラットの妊娠9～11日目の投与で胎児に水頭症と口蓋裂を含む奇形がみられたとの報告がある(IARC 10 (1976)、HSDB (Access on May 2020))。なお、このデータはIARC 50 (1990)には引用されていない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 分類できない

Sodium carbonate (497-19-8)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4時間後に治まった(SIDS (access on July 2008))との記載より区分3(気道刺激性)とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、嗜眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している(SIDS (access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間に嗜眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS (access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3(麻酔作用)とした。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Ammonium chloride (12125-02-9)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	経口投与により、ラットでは 1000 mg/kg bw 以上で呼吸困難、無関心、姿勢異常、よろめきの症状、マウスでは 1200 mg/kg bw で下痢、チアノーゼ、失調性歩行が観察された（SIDS（2009））。これらの症状と剖検での脳出血の所見（SIDS（2009））、さらに塩化アンモニウムの摂取後に中枢神経障害の発現が報告されている（EHC 54（1986））。以上の記述に基づき、1000～1200 mg/kg bw はガイダンス値区分 2 に該当することから区分 2（神経系）とした。なお、ヒトで大量摂取の場合、嘔気、嘔吐、頭痛などの症状とともに進行性の嗜眠状態を生じ、アシドーシスと低カリウム血症を起こす可能性があるとして記述されている（SIDS（2009））。
Chloramphenicol (56-75-7)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない	
Sodium carbonate (497-19-8)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに 70 mg/m ³ /4h（0.0467 mg/L/6h）を 3.5 ヶ月間吸入ばく露した試験で、局所影響として気管支上皮の肥厚と剥離、脈管周囲の浮腫が観察された（SIDS（access on July 2008））が、この所見のみで重大な毒性影響とは判断できない。さらに、雄のみ、一用量のみの試験であり、ばく露による影響についてその他に記載もなく分類できない。
Ammonium chloride (12125-02-9)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	塩化アンモニウムの長期間（6 ヶ月）摂取により疲弊と空気飢餓感のため、あるいは呼吸亢進と錯乱のため入院に至った（代謝性）アシドーシスの症例、および短期間摂取後軽度の（代謝性）アシドーシスを発症した症例など、アシドーシスに関して複数の報告（SIDS（2009）、ACGIH（2001））があることから区分 1（全身毒性）とした。なお、ウサギに高用量を経口反復ばく露によりアシドーシスが観察されているが、ラットに経口による反復ばく露試験では重大な毒性影響は認められず、NOAEL に関しては 70 日混餌投与試験で 684 mg/kg bw/day（90 日補正：532 mg/kg bw/day）（SIDS（2009））、56 日混餌投与試験で 493 mg/kg bw/day（90 日補正：307 mg/kg bw/day）（SIDS（2009））であった。また、ウシに 112 日間混餌投与では NOAEL が 206 mg/kg bw/day（SIDS（2009））であり、経口ばく露の場合いずれもガイダンス値範囲の上限を超えている。
NOAEL（経口、ラット、90 日）	約 1695.7 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 408 (Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity Study in Rodents)

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Chloramphenicol (56-75-7)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1)～(7)より、区分1(造血系、神経系、循環器系、消化器)とした。新たな情報源の情報を加えて検討を行い、旧分類から分類結果を変更した。【根拠データ】(1)本物質は、医療用医薬品として使用される抗生物質である。重大な副作用として、再生不良性貧血、Gray syndrome、視神経炎又は末梢神経炎、その他の副作用として血液への影響(顆粒球減少、血小板減少症)、消化器への影響(胃部圧迫感、悪心、嘔吐、軟便、下痢、腸炎)、過敏症状、菌交代症、ビタミン欠乏症が挙げられている(JAPIC 医療用医薬品集 2017 (2016))。(2)ヒトにおいて本物質の血液毒性が確認されている。一つは、通常発現する用量相関的で可逆的な骨髄抑制であり、投与中はこの影響が亢進するが、休薬後は回復する。もう一つは、重篤な再生不良性貧血であり、用量相関性がなくしばしば不可逆的である(食安委 動物用医薬品評価書 (2014))。(3)ヒトでは本物質の投与量が4 g/日を超える場合、用量相関的な骨髄抑制がより多く生じることが明らかである。投与が持続的なものでない場合や、用量が減少した場合、毒性は可逆的である(食安委 動物用医薬品評価書 (2014))。(4)本物質は、グレイ症候群(“Grey Baby Syndrome”、“Grey Syndrome”)の発症に関与することが知られている。グレイ症候群は、通常、本物質の投与開始2～9日後に始まる心血管虚脱状態である。その特徴は、食事ができない、嘔吐、腹部膨満、チアノーゼ、無気力、ショック状態、体温の低下等である。発症例の60%が死亡するとも言われ、通常、本物質の投与量が25 mg/kg 体重/日を超えると発現するとされている(食安委 動物用医薬品評価書 (2014))。(5)治療用量の本物質を長期にわたり経口投与すると、出血が誘発される。これは、骨髄抑制又はビタミンKを生成する腸内細菌叢の弱体化から起こるビタミンKの合成阻害によるものである(食安委 動物用医薬品評価書 (2014))。(6)長期にわたる本物質投与による眼毒性について数例が報告された。この眼毒性は、しばしば暗点及び視力低下を伴う視神経炎で球後視神経炎が観察される場合もある。球後視神経炎は嚢胞性線維症の症例でみられたが、嚢胞性線維症患者の特異的な感受性であるというよりむしろ嚢胞性線維症における治療に本物質を選択したことを反映している可能性がある。総用量はしばしば80～250 gの範囲で数ヵ月にわたり投与された。ある患者は、本物質を6週間にわたり投与(6 g/日; 総用量約250 g)され、後両側性視神経炎を発症した。末梢神経炎が眼に対する影響を伴う可能性がある(食安委 動物用医薬品評価書 (2014))。(7)本物質の投与後に難聴がみられることがある。ある事例では、2.5歳の男児に本物質を26日間投与(125 mg/kg/日)し、男児は難聴となり、休薬しても難聴の状態が持続した。他の薬剤は投与されなかった(食安委 動物用医薬品評価書 (2014))。
誤えん有害性	: 分類できない
Sodium carbonate (497-19-8)	
誤えん有害性	データなし。
動粘性率	Not applicable (solid)
Ammonium chloride (12125-02-9)	
誤えん有害性	データなし。
動粘性率	Not applicable (solid)
Chloramphenicol (56-75-7)	
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般 : 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。

水生環境有害性 短期（急性） : 区分に該当しない

水生環境有害性 長期（慢性） : 区分に該当しない

Sodium carbonate (497-19-8)	
水生環境有害性 短期（急性）	甲殻類（ミジンコ）での 48h-EC50=250mg/L（SIDS 2002）であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	難水溶性ではなく（水溶解度=5307mg/L、PHYSPROP Database 2008）、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	300 mg/l (96 h, Lepomis macrochirus, Static system, Fresh water, Experimental value, Lethal)
EC50 - 甲殻類 [1]	200 – 227 mg/l (48 h, Ceriodaphnia sp., Semi-static system, Fresh water, Experimental value, Locomotor effect)
EC50 - 甲殻類 [2]	200 – 227 mg/l Test organisms (species): Ceriodaphnia sp.
EC50 96h - 藻類 [1]	242 mg/l Source: ECOTOX
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-6.19 Source: Quantitative Structure Activity Relation
Ammonium chloride (12125-02-9)	
水生環境有害性 短期（急性）	本物質は専門家判断により、総アンモニアとして分類する方針とした。魚類（ニジマス）96 時間 LC50 = 40.8 mg/L (pH: 8.29)（Thurston et al., 1981）であることから、区分 3 とした。分類対象物質の考え方の変更により、旧分類から分類結果を変更した。
水生環境有害性 長期（慢性）	本物質は専門家判断により、総アンモニアとして分類する方針とした。急速分解性があり（水生環境中で速やかに硝化される(SIDS, 2007)）、藻類（ナビクラ属）の 10 日間 NOEC=26.8 mg/L (pH: 8.0)、甲殻類（オオミジンコ）の 21 日間 NOEC=14.6 mg/L (pH: 8.3-8.6)、魚類（Menidia beryllina）の 28 日間 NOEC = 8 mg/L (pH: 7.36-7.86)（いずれも SIAR, 2004）であることから、区分に該当しないとした。分類対象物質の考え方の変更及び慢性毒性の分類方法の変更により、旧分類から分類結果が変更となった。
LC50 - 魚 [1]	209 mg/l (APHA, 96 h, Cyprinus carpio, Semi-static system, Experimental value)
EC50 - 甲殻類 [1]	101 mg/l (ASTM E729-80, 48 h, Daphnia magna, Static system, Fresh water, Experimental value, Lethal)
ErC50 藻類	1300 mg/l (5 day(s), Chlorella vulgaris, Static system, Fresh water, Experimental value, Nominal concentration)
NOEC 魚 慢性	8 mg/l
NOEC 甲殻類 慢性	14.6 mg/l
NOEC 藻類 慢性	26.8 mg/l

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Chloramphenicol (56-75-7)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類（デスモデスス属）72 時間 EC50 = 0.78 mg/L（HSDB, 2020）であることから、区分 1 とした。情報の再検討により、旧分類から分類結果を変更した。
水生環境有害性 長期（慢性）	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性がなく（BIOWIN）、急性毒性は区分 1 であることから、区分 1 とした。急性毒性の分類結果変更及び慢性毒性の分類方法の変更により、旧分類から分類結果が変更となった。
LC50 - 魚 [1]	10 mg/l
ErC50 藻類	0.78 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.14 Source: HSDB

残留性・分解性

HC Agar Base	
残留性・分解性	急速分解性でない
Sodium carbonate (497-19-8)	
残留性・分解性	Biodegradability: not applicable。
化学的酸素要求量(COD)	Not applicable (inorganic)
ThOD	Not applicable (inorganic)
Ammonium chloride (12125-02-9)	
残留性・分解性	Biodegradability: not applicable。
化学的酸素要求量(COD)	Not applicable (inorganic)
ThOD	Not applicable (inorganic)
Chloramphenicol (56-75-7)	
残留性・分解性	Biodegradable in water。

生体蓄積性

HC Agar Base	
生体蓄積性	データなし
Sodium carbonate (497-19-8)	
生体蓄積性	Not bioaccumulative。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-6.19 Source: Quantitative Structure Activity Relation
Ammonium chloride (12125-02-9)	
生体蓄積性	Not bioaccumulative。
Chloramphenicol (56-75-7)	
生体蓄積性	No bioaccumulation data available。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.14 Source: HSDB

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

土壌中の移動性

HC Agar Base	
土壌中の移動性	データなし
Sodium carbonate (497-19-8)	
表面張力	No data available in the literature
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-6.19 Source: Quantitative Structure Activity Relation
生態系 - 土壌	Low potential for adsorption in soil.
Ammonium chloride (12125-02-9)	
表面張力	No data available in the literature
生態系 - 土壌	Adsorption to soil is possible.
Chloramphenicol (56-75-7)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	1.14 Source: HSDB

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 固体廃棄物については適用法令を遵守する。 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

UN RTDGに準ずる

国連勧告 (UN RTDG)	
国連番号	
輸送規則の定義上危険物に該当しない。	
国連正式品名	
	規制されていない
輸送危険物分類	
	規制されていない
容器等級	
	規制されていない

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

国連勧告 (UN RTDG)	
環境有害性	
	規制されていない

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

その他の情報： 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	： 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2） 【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 0 条別表第 2） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2） 塩化アンモニウム（別表の番号：304） 2，2－ジクロロ－N－〔2－ヒドロキシ－1－（ヒドロキシメチル）－2－（4－ニトロフェニル）エチル〕アセトアミド（別名クロラムフェニコール）（別表の番号：815） 炭酸ナトリウム（別表の番号：1189） 【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 3 4 条の 2 別表第 2） 塩化アンモニウム（別表の番号：304） 2，2－ジクロロ－N－〔2－ヒドロキシ－1－（ヒドロキシメチル）－2－（4－ニトロフェニル）エチル〕アセトアミド（別名クロラムフェニコール）（別表の番号：815） 炭酸ナトリウム（別表の番号：1189） がん原性物質（安衛則第 5 7 7 条の 2 第 5 項、令和 4 年 1 2 月 2 6 日告示第 3 7 1 号、令和 4 年 1 2 月 2 6 日基発 1 2 2 6 第 4 号） 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（安衛則第 5 9 4 条の 2 第 1 項、令和 4 年 5 月 3 1 日基発 0 5 3 1 第 9 号、令和 5 年 7 月 4 日基発 0 7 0 4 第 1 号・5 該当物質の一覧「eye」）
水質汚濁防止法	： 有害物質（法第 2 条、施行令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条） 指定物質（法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3）

安全データシート

HC Agar Base

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。